

## うるさい

こんにちは皆さん。自分が「うるさい」と感じる事は、他の人は「うるさい」とは全然思わないかも。逆に、他の人が「うるさい」と思う事は、私にとっては全然平気です。例えば、私が食べている時に、「美味しいな」とか「これ、うまいな」とかよく言いますが、お嫁さんにとっては、こう言う食事の話はともうるさいです。同じ様に、お嫁さんが自分の兄弟と話していると、だいたい大盛り上がりで、自分が「非常にうるさい」と感じるのに、彼女にとっては普通です。やっぱり、「うるさい」と言う感覚は、人によっても違ふし、国によっても違ふかも知れません。

ところで、私は騒音に少し敏感だと思うので、「うるさい」とはよく感じますよ。例えば、オランダのリムジンバスが大嫌いです！多くの乗客が携帯で電話をしたり、ウォークマンの音楽を聞いたり、友達と激しく話したりしているので、私にはともうるさい所です。これに比べたら、日本のリムジンバスが私の天国です！皆が静かに寝たり、本を読んだり、携帯のメールチェックをしたりするだけですからね。同じ理由で、私は日本の山・海岸・病院・タクシー・図書館・学校・電気屋・ジム・キャンプ場がとても好きです。しかし、日本には「うるさい」と感じる時がいくつかあり、周りの日本人は全然平気みたいなのに、私には(オランダ人・外国人には?) 中々慣れにくいところです。その時や場所をこれから紹介したいとおもいます。



レムコ・ライコフさん



**政治活動のうぐいすさん** もちろん、選挙の時、全ての政治家候補の意見を知りたいんですが、家族で静かに夕食を食べている時に台所の中にまでうぐいすさんの大きな声が入って、グラスが揺れるほど「宜しくお願いします。宜しくお願いします。宜しくお願いします。」との形では何かと嫌ですね。パンフレットを配る方がもっといいんじゃないですか？

**店で一日中ずっと騒いでいるテレビとカセットプレーヤー** まずは、買い物をするのは余り好きではありません。でも、しなきゃいけない時には、やっぱり静かな店がいいと思います。しかし、通路ごとに違う広告の音楽やDVDが聞こえるのがとても気になり、もっぱら騒音汚染と感じます。もし、商品に関して何か知りたかったら、スタッフに聞きますよ。

**サッカーの応援の練習** 三年前、私が朝の7時半に近くにある学校から太鼓の音や子供の叫び声、やかましい音で起こされました。学校に問い合わせの電話をすれば、先生が「あ、今外で応援の練習をしおる」と教えて下さいました。「でも、こんな早い時間だと、体育館の中で出来ないのか？」と考えました。逆に、隣の人々は皆平気でした。

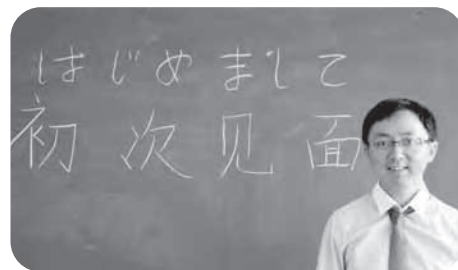


**どこにでも設置されているテレビ** 日本人はテレビを見るのが好きそうなので、車の中でも、銀行の中でも、サウナでも、温泉でも見えています。私は日本のテレビが余り好きではなく、特にくつろぐ為に温泉かサウナへ行くから、静かな雰囲気が一番いいと思います。サウナでテレビを見るよりも、隣の人と静かに話す方がもっと楽しいです。

この神経質なオランダ人、うるさいな～

## 雲南省少数民族の主なお祭り(2)

皆さん、新年おめでとうございます。中華文化圏、インド文化圏と東南アジア文化圏の境目に位置する雲南省は、アジア諸民族文化の最も重要な繋ぎ目であるのみならず、人類文化遺産の中に最も貴重な宝庫でもあろう。ここにはかつて輝いた青銅器文化があるし、稲作文化と茶文化の発祥地の一つでもあります。今回は前回に引き続き、雲南省少数民族の主なお祭りについて、皆さんに紹介したいと思います。



シュウガン  
舒剛さん



### 傣(タイ)族の「水掛け祭り」

傣(タイ)族は西暦より638年遅れる独特なタイ暦を採用しています。傣族ならではの水掛け祭はタイ暦の正月にあたり、西暦の4月ごろに行われます(タイも同じ)。祭りの日になると、傣族の人々は仏様を拝み、少女たちが花の漂う清水で仏像に付着する埃を洗い落とし、互いに祝福をするように水を掛け合います。したがって、傣族は文化や宗教の面において、東南アジア諸国、特にミャンマー、タイ、カンボジア等の国と古くより密接なつながりのある民族でもあります。

### 白(ペー)族の「三月街(サンユェジェ)祭り」

白(ペー)族「三月街祭り」とは毎年旧暦の3月15日から一週間にかけて、本市の友好都市である大理市の蒼山の麓で開かれる盛大な物資の取引大会のことです。その歴史は千年前に遡られ、「千年も続き、千年にわたって同じ市へ通う」(千年赶一街、一街赶千年)と言われる白族にとって最大の祭りであります。



その由来は大理の地を切り開いたと思われる地元の観音様崇拝に繋がり、伝説によれば、毎年旧暦の3月15日は観音様が大理に足を運び、法を説く日とされ、その七日間の間に観音様を礼拝したり、説法を聞いたりするため大勢の信者たちが蒼山の麓に集るとともに、観音様に供える線香など品を売る市が立つようになり、後、それぞれの品物を売る市となって、今まで続いて来た「三月街祭り」の雛形となりました。

### 納西(ナシ)族の「焼包(シャオバオ)祭り」

納西(ナシ)族は雲南省特有の民族で、その人口は約28万、居住地の麗江市(岐阜県高山市の友好都市)と言う町全体は既にユネスコの世界遺産に登録されています。納西族の人々は主にトンバと言う一種の原始多神教を信仰し、それに繋がる「トンバ文字」は現在でも使われている「生きている象形文字」として世に名を馳せています。

「焼包祭り」とは毎年旧暦の7月13-14日に行われる納西族の先祖を送迎する行事です。7月13日になると、人々は経文や宗教的図案が印刷された小袋に金や銀の紙で作ったおまじないを入れ、袋の表に先祖の名前を書き、お菓子、お酒、お茶などと共に仏壇に供えて先祖を迎えます。そして、翌日の夜になると、皆は近くの河原に行き、それらの袋を燃やし、灰を河に流し、先祖を見送ると言う行事であります。